

製品名: AMPK β 1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06850**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKAB1
別名	PRKAB1; AMPK; 5'-AMP-activated protein kinase subunit beta-1; AMPK subunit beta-1; AMPKb
遺伝子 ID	5564.0
SwissProt ID	Q9Y478
免疫原	抗血清はヒト PRKAB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

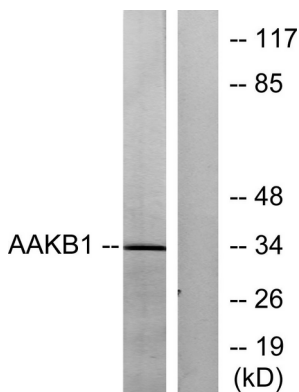
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、AMP 活性化タンパク質キナーゼ (AMPK) の調節サブユニットです。AMPK は、 α

触媒サブユニットと非触媒 β および γ サブユニットからなるヘテロ三量体です。AMPKは、細胞のエネルギー状態を監視する重要なエネルギー感知酵素です。細胞の代謝ストレスに反応して、AMPKは活性化され、脂肪酸とコレステロールの de novo 生合成の調節に関与する重要な酵素であるアセチル CoA カルボキシラーゼ (ACC) と β -ヒドロキシ β -メチルグルタリル CoA 還元酵素 (HMGCR) をリン酸化して不活性化します。このサブユニットは、AMPK 活性の正の調節因子である可能性があります。このサブユニットのミリスチル化とリン酸化は、AMPK の酵素活性と細胞内局在に影響を及ぼすことが示されている。このサブユニットは、AMPK 複合体の会合を媒介するアダプター分子としても機能する可能性があります。 [providedfunction:AMPK は、アセチル CoA カルボキシラーゼのリン酸化を介して脂肪酸合成を調節する。また、ヒドロキシメチルグルタリル CoA 還元酵素およびホルモン感受性リパーゼのリン酸化と不活性化を介してコレステロール合成も調節する。これは調節サブユニットであり、AMPK 活性の正の調節因子である可能性がある。また、触媒 α サブユニットのアダプター分子として機能する可能性もある。、PTM:リン酸化。、類似性:5'-AMP 活性化プロテインキナーゼ β サブユニットファミリーに属する。、サブユニット: α 触媒サブユニット、 β サブユニット、および γ 非触媒調節サブユニットのヘテロ三量体。FNIP1 および FNIP2 と相互作用する。、

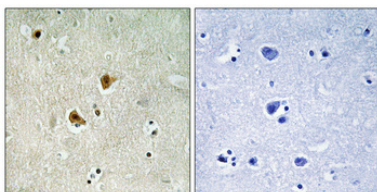
研究分野

AMPK

画像データ



TNF 20 ng/ml 5'処理した Raw264.7 細胞のライセートを PRKAB1 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。